

自己評価結果公表シート

別紙 2

作成 福島めばえ幼稚園

めばえ幼稚園

1. 本園の教育目標

豊かな人格形成を目標におき、生涯にわたる人間性の基礎を養う。愛、自立、健康、創造を4つの柱とし、入園から卒園までの園生活を通して、社会性を養い自主性を育てる。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

子どもの遊びに注目し、その中で何を学んでいるのか、どんな力が育っているのかを把握する。また、遊びの展開や継続をめざして、環境を整え適切な援助を考える。

3. 評価項目の達成及び取組み状況

| 評価項目 | 取組み状況 |
|---|--|
| 幼稚園の教育方針に基づき、教育課程を作成している。 | 環境を通しての保育、遊びの充実をめざして、環境論を学び始めて2年目になる。日々の環境作りと援助の考察を深めるために月案や週案の内容を改めて考えた。 子どもたちの経験の中でも、自然との直接体験や友だちとの協同的学びが可能な保育内容を工夫した。 |
| 保育者および保育の質の向上を図るために、園内研修を充実させる。 | 昨年に引き続き環境の充実のため、國學院大學助教 中野圭祐先生に依頼した。また、環境を考えるためには日々の記録からの改善が必要なため、記録の在り方を聖心女子大学河邊貴子先生にご指導いただく。子どもの共感性を高めるため、リトミックや絵本の研修も設けた。記録の内容を変更して対応した。 |
| 幼児一人ひとりの教育ニーズを把握し、適切な指導を行う。 | 集団が苦手な子が増えている。教職員間で共通理解を図り、必要に応じて個別の関わりを行っている。発達障害だけでなく、愛着障害も重なっている場合があり対応の難しさがある。 |
| 保護者のニーズの把握につとめ、要望や意見に適切な対応をする。保護者との連携を図り、幼児のよりよい育ちへとつなげる。 | 日頃から、幼児の様子と年齢なりの発達段階を知らせ、園と家庭と一体となって幼児の成長を促している。要望や意見に関しては、真摯に受け止め、参観日や園だよりを通じて園の考え方を示しながら、丁寧に対応している。個人の相談業務の充実を図り、めばえ相談室や各副園長が保護者や親子の様子を送迎時に観察し、適宜発達や心理面において対応している。 |

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

保育者一人ひとりが適切に自己点検、自己評価し、自分の保育の課題を見つけることができた。教育方針の理解や具体的な保育内容や援助を考え、実践できるよう努めていきたい。

5. 今後取り組むべき課題

| 課 題 | 具体的な取り組み方法 |
|----------------|---|
| 家庭との連携 | 本来の保育内容を実施できるようになった。マスク生活やメディアの普及から、子どもの言葉の発達の遅れ、コミュニケーション能力の低下がみられる。令和5年度常磐大学の海老名悠希先生に講演していただき、幼児期の発達や言葉の獲得に大切なことを確認した。本年度も、海老名先生に、父親向けに夕方講演いただき、家族で意識して子どもに関われるように企画する。 |
| 幼児教育の意識についての発信 | 地域の方々との交流の中から園の教育方針や内容を理解していただいたりホームページの更新ページの充実を図ったりして、最新情報を公開していく。令和5年度から、担任が週に1度交代で子どもの様子をアップするようになり好評を得ている。また、子どもの育ちを見える化するためにポートフォリオとして学期に1度、写真で子どもの学びや育ちを連絡帳で伝えていく。 |
| 子育て支援 | 愛着関係が上手く築けずに入園してくる子どもが多い中、入園前の親子へのアプローチの必要性を感じる。ピッコロクラブ(未就園児の親子のサークル)の充実を図り、園児の保護者へも日常での関わり方などを知らせ、今あるべき親子関係の在り方を提案していく。発達について支援が必要な場合早めにお知らせして共に考える姿勢を示し、孤立子育て防止に努める。 |
| その他 | 子どもの活動、保護者同士の交流などを従来していた活動やイベントなど意味を考え、在り方や方法を探り今後の育ちを促す活動の充実を図りたい。 |

6. 学校関係者の評価

令和6年5月30日に行われた学校関係者評価委員会で承認いただきました。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。